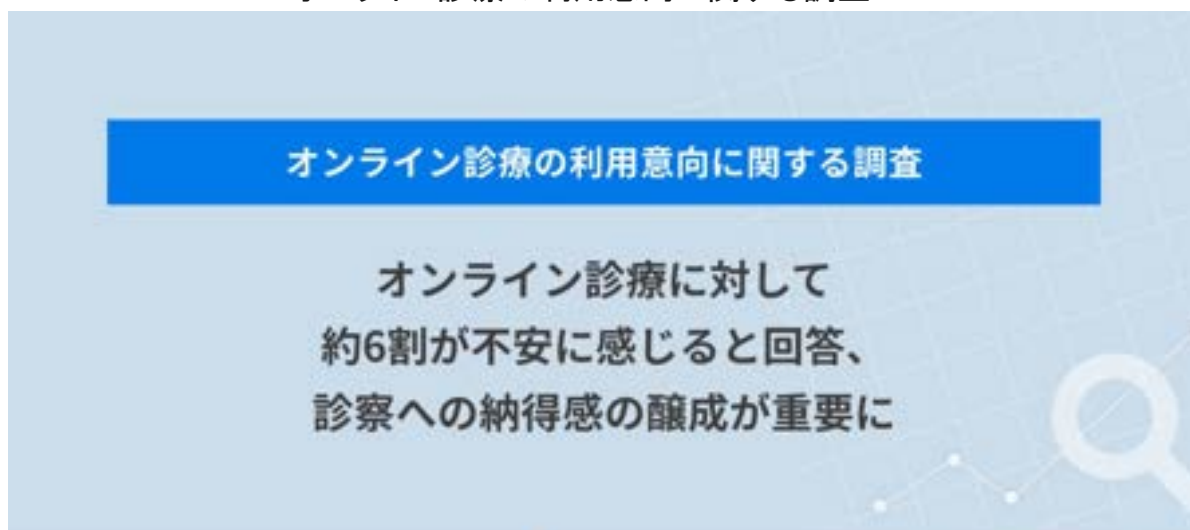




オンライン診療に対して約6割が不安に感じると回答、診察への 納得感の醸成が重要に

オンライン診療の利用意向に関する調査



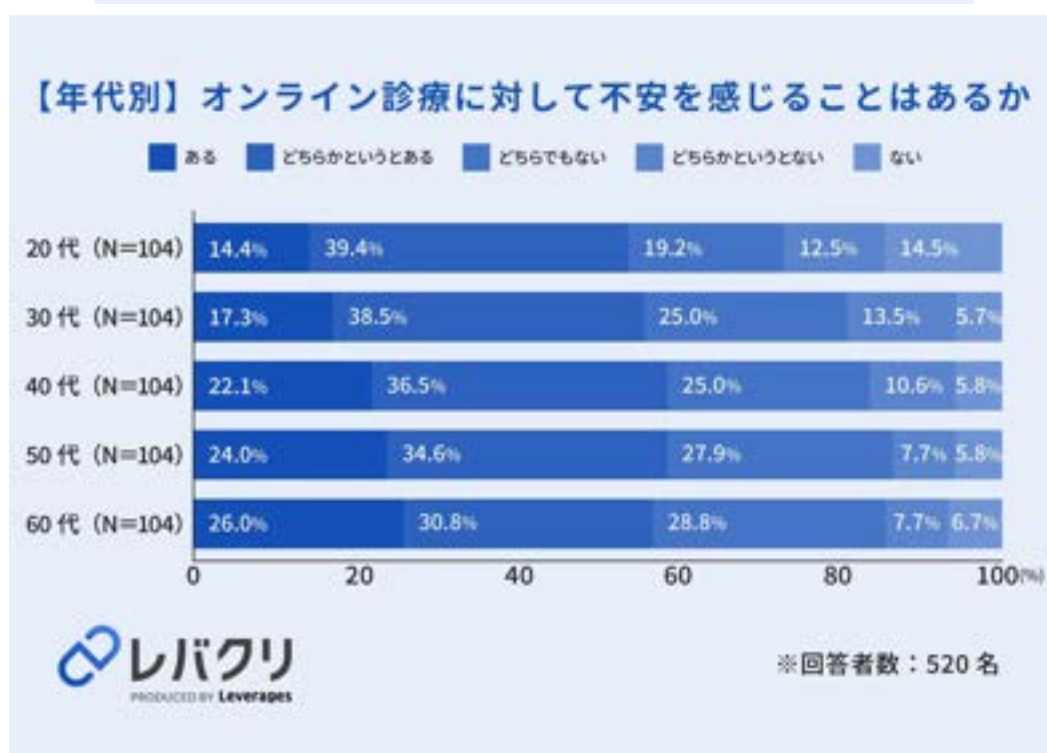
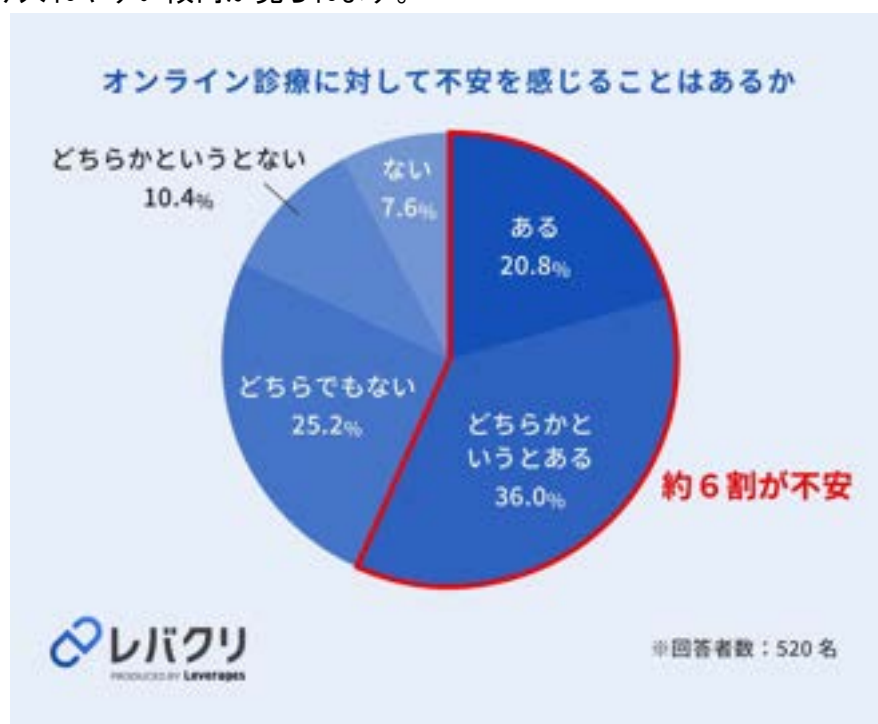
レバレッジズ株式会社が運営するオンライン診療プラットフォーム「レバクリ」(<https://levcli.jp/>)は、直近1年以内に対面にて病院受診の経験がある520名を対象に、オンライン診療の利用意向に関する調査を実施しました。

〈調査サマリー〉

1. オンライン診療に対して約6割が不安に感じると回答、診察への納得感の醸成が重要に
2. 約4割がオンライン診療受診施設を利用したいと回答
3. 花粉症患者の5割以上が「オンライン診療を利用したい」と回答、継続治療における利便性への期待

1.オンライン診療に対して約6割が不安に感じると回答、診察への納得感の醸成が重要に

オンライン診療に対して不安を感じることはあるかという質問に対し、「ある(20.8%)」「どちらかというところ(36.0%)」が合わせて約6割にのぼりました。不安を感じる人の割合は50代が約58.6%と全年代で最も高くなりました。一方で、20代では「どちらかというところ(12.5%)」「ない(14.5%)」と回答した方が約4人に1人(27.0%)にのぼり、若年層ほどオンライン診療を受け入れやすい傾向が見られます。



不安を感じる理由としては「画面越しでは顔色や患部の細かな異変が正確に伝わらない気がするから(58.6%)」や「信頼できる医療機関や医師かどうか、判断が難しいから(53.9%)」が上位に挙げられました。2026年4月より、医療法改正に基づき「オンライン診療受診施設」の届出制度が施行されます。こうした制度やデジタル技術を介在させることで、医療現場の負担を増やすことなく診察の納得感を醸成していくことが求められると考えられます。



2.約4割がオンライン診療受診施設を利用したいと回答

同改正法により、公民館や郵便局などに専用スペースとしての「オンライン診療受診施設」が新たに創設されます*1。こうした施設での受診意向について、調査回答者のうち約4割が「利用したい(13.3%)」「どちらかというところと利用したい(24.0%)」と回答しました。

利用したい理由としては「買い物や通勤のついでに立ち寄りやすいから(59.8%)」や「スマートフォンの操作などをサポートしてもらえる期待があるから(37.6%)」が上位に挙がりました。スタッフの介在があることで、デジタル操作に不慣れな方でも利用しやすくなり、心理的なハードルの軽減に繋がる可能性が示唆されます。

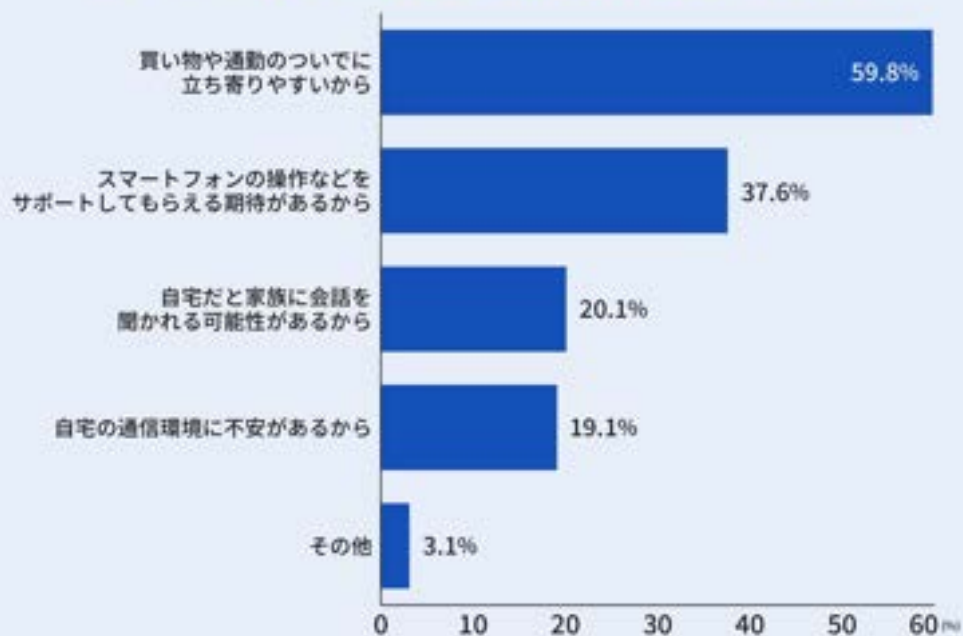
一方で利用したくない理由は「画面越しだけで医師に正確に診断してもらえるか不安だから(60.6%)」が最も多い結果となり、対面診療との適切な使い分けや安心感の醸成が引き続き重要であることがうかがえます。

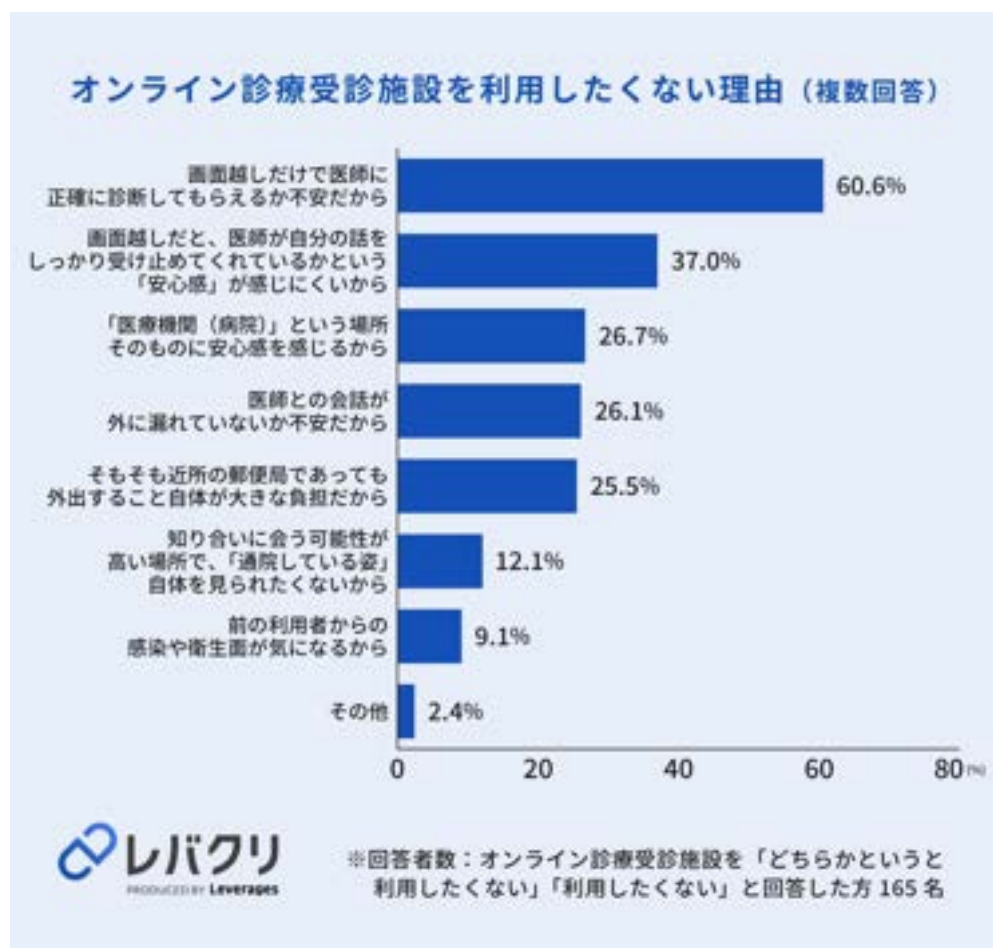
1 厚生労働省「第124回社会保障審議会医療部会(2026年1月26日開催)資料1:オンライン診療について」
<https://www.mhlw.go.jp/content/10801000/001642125.pdf>

オンライン診療受診施設を利用したいか



オンライン診療受診施設を利用したい理由（複数回答）

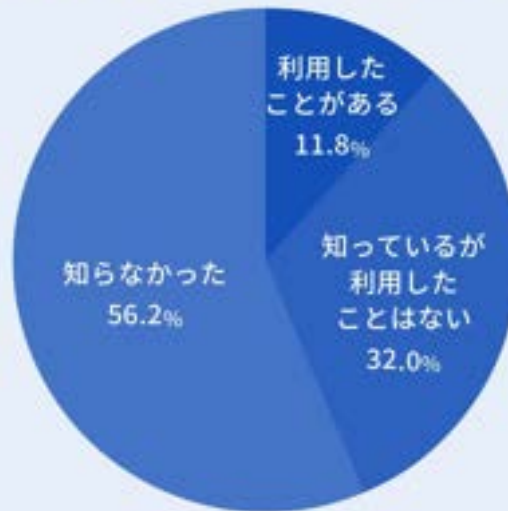




3.花粉症患者の5割以上が「オンライン診療を利用したい」と回答、継続治療における利便性への期待

花粉症を患っていると回答した方のうち、花粉症治療におけるオンライン診療の認知度は「利用したことがある（11.8%）」「知っているが利用したことはない（32.0%）」と合わせて約4割に留まりました。

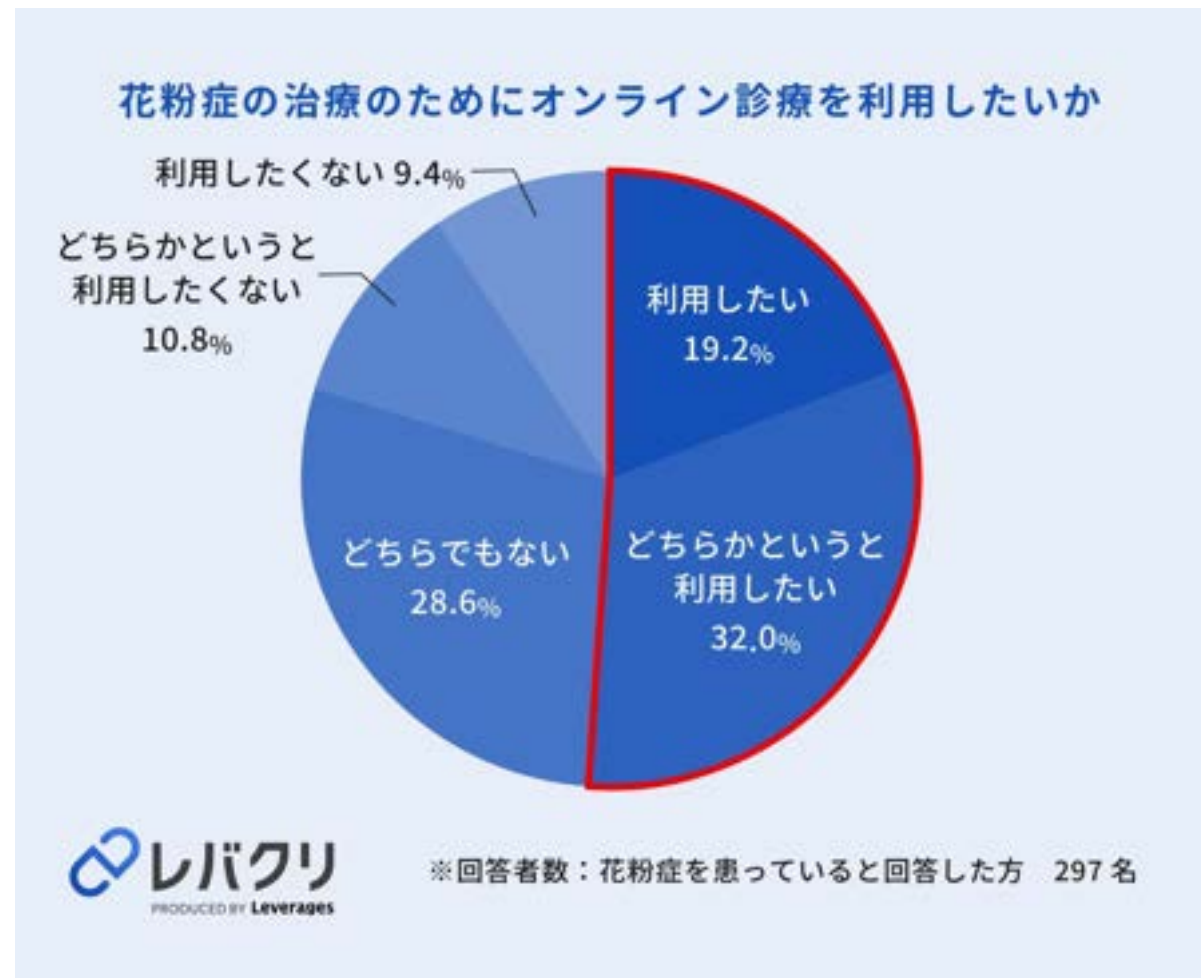
花粉症治療におけるオンライン診療の認知度



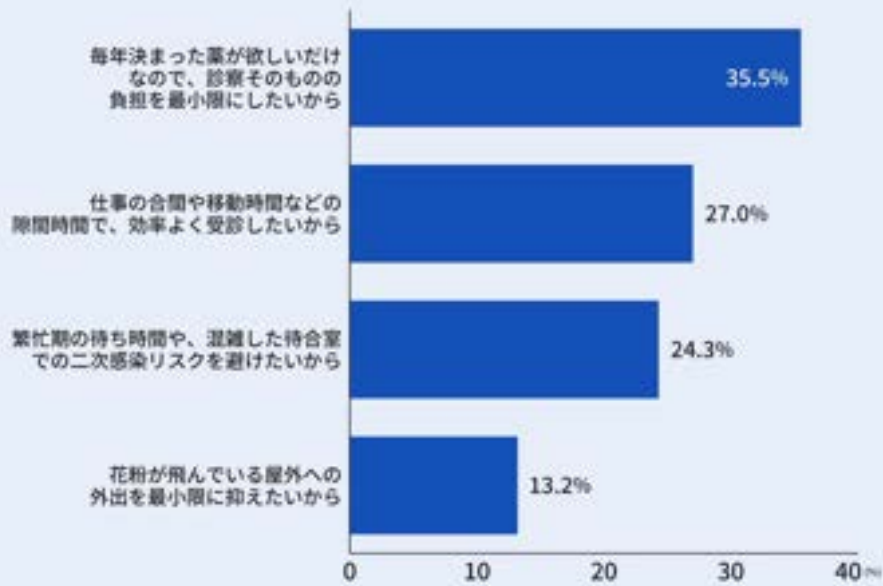
※回答者数：花粉症を患っていると回答した方 297名

一方で、今後の利用意向については5割以上が「利用したい(19.2%)」「どちらかという利用したい(32.0%)」と回答しました。利用したい理由には「毎年決まった薬が欲しいだけなので、診察そのものの負担を最小限にしたい(35.5%)」や「仕事の合間や移動時間などの隙間時間で、効率よく受診したい(27.0%)」が挙がり、慢性的な症状に対して利便性や時間効

率を重視する傾向がうかがえます。

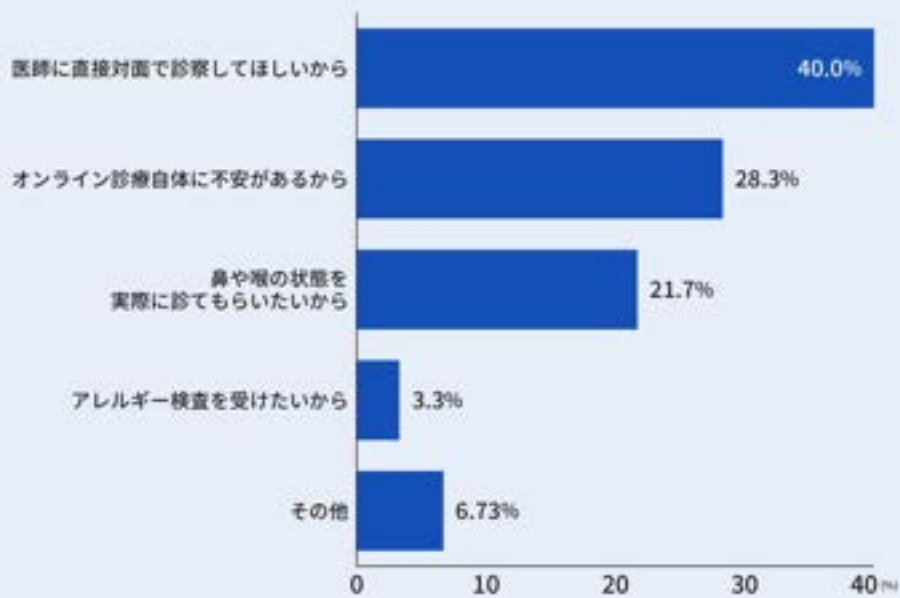


花粉症の治療のためにオンライン診療を利用したい理由（複数回答）



※回答者数：花粉症の治療のためにオンライン診療を「利用したい」「どちらかという利用したい」と回答した方 152名

花粉症の治療のために オンライン診療を利用したくない理由（複数回答）



※回答者数：花粉症の治療のためにオンライン診療を「どちらかという利用したくない」「利用したくない」と回答した方 60名

〈事業責任者 中嶋のコメント〉

2026年4月の医療法改正により、「オンライン診療受診施設」の届出制度が施行され、オンライン診療という選択肢は今後さらに身近なものになることが予想されます。

今回の調査では若年層を中心にオンライン診療に対する受容性の高まりが見られました。またオンライン診療受診施設や花粉症といった継続的な対応が求められる症状への利用意向が確認されたことは、今後の普及に向けた前向きな兆しと言えるでしょう。

一方で、オンライン診療自体への「診察への納得感」や「信頼できる医療機関・医師かどうか」といった観点において、約6割の方が不安に感じているという実態も明らかになりました。オンライン診療への不安を解消し、その利便性を最大限に享受いただくためには、患者様が迷わず安心して医療機関と繋がれる環境が必要不可欠です。対面診療とオンライン診療が互いの特性を活かし、ライフスタイルに合わせて最適な受診手段を選択できるように適切な情報提供とスムーズな受診体験はより重要になるでしょう。

◆レバレッジズ株式会社 オンライン診療事業部 部長 中嶋 一揮



京都大学法学部卒。2019年レバレッジズに新卒入社し、IT人材領域のマーケティング・プロダクトマネジメント・新規事業開発に従事。2023年からオンライン診療プラットフォーム「レバクリ」を立ち上げ、事業部長として組織統括/事業戦略策定を牽引。

並行して、mederi株式会社のM&Aを主導し、PMI責任者として同社取締役を兼務している。

＜調査概要＞

調査年月：2026年3月16日～2026年3月18日

調査方法：インターネット調査

調査主体：レバレッジズ株式会社

実査委託先：株式会社マクロミル

有効回答数：520人

調査対象：直近1年間の間に、対面で病院受診の経験がある方

レバクリ(<https://levcli.jp/>)

レバクリは「自宅があなたのクリニックになる」をコンセプトに、スマホで簡単に医師の診察と処方※を受けご自身にあった医薬品が自宅に届く、オンライン診療のプラットフォームサービスです。予約・事前問診・電話もしくはビデオチャットでの診察・決済・医薬品の配送をオンライン上でワンストップで完結することができます。アフターフォローも充実しており、医薬品が届いた後も再診を受けることやマイページ上で医師への相談が可能です。※診察や薬の処方※は提携先医療機関で実施しています

レバレッジズ株式会社 (<https://leverages.jp/>)

本店所在地：東京都渋谷区渋谷二丁目24番12号 渋谷スクランブルスクエア24階 /25階

代表取締役：岩槻 知秀

資本金：5,000万円

設立：2005年4月

事業内容：自社メディア事業、人材関連事業、システムエンジニアリング事業、システムコンサルティング事業、M&Aアドバイザー事業、DX事業、メディカル関連事業、教育関連事業

社会の課題を解決し関係者全員の幸福を追求し続けることをミッションに、インターネットメディア・人材・システムエンジニアリング・M&Aの領域で国や業界をまたいだ問題解決を行なっています。2005年に創業以来、黒字経営を継続し、2024年度は年商1428億を突破しました。各分野のスペシャリストが集うオールインハウスの組織構成と、業界を絞らないポートフォリオ経営で、時代を代表するグローバル企業を目指します。

本リリースに関する報道関係のお問い合わせ

レバレッジズ株式会社 広報部

TEL: 03-5774-2900 MAIL: pr@leverages.jp